

立教大学全学共通カリキュラムにおけるESDの実践

——ESDの理念と実践：参加型の「学び」と持続可能な社会づくり

阿部治・湯本浩之・市川照仔

当研究所は、前身であるESD研究センターの設立（2007年3月）に伴い、「持続可能な開発のための教育（ESD）」を立教大学の全学共通カリキュラム主題別B科目として提案し、開講してきた。2012年度から全学共通カリキュラムは改訂されたが、本科目は引き続き承認された。本稿では、2012年度開講の本科目の実施の概要をはじめ、「授業アンケート」の結果を報告する。

1. 科目基礎情報

科目群・科目名：

主題別科目群B「持続可能な開発のための教育（ESD）」

学期・曜限・単位数・履修定員：

前期・火曜2限・2単位・50名

コーディネーター・担当教員：

阿部 治（ESD研究所長・社会学部教授）

湯本 浩之（ESD研究所員・文学部特任准教授）

市川 照仔（立教大学キャリア教育オフィス コオプ・コーディネーター）

ゲスト講師（登壇順・敬称略）：

小玉 敏也（麻布大学生命・環境科学部教授）

飯島 博（NPO法人アサザ基金代表理事）

長沢恵美子（一般社団法人経団連事業サービス・総合企画・事業支援室長）

湯本 貴和（京都大学霊長類研究所教授）

インターネット授業の屋久島側参加者（敬称略）：

荒田 洋一（樹木医）

木原 幸治（屋久島町役場環境政策課）

武田 剛（元朝日新聞社「地球環境」担当記者・屋久島ユースホステル）

手塚 賢至（屋久島まるごと保全協会）

戸越雄一郎（財団法人屋久島環境文化財団）

テキスト：

『図説屋久島：屋久島環境文化村ガイド』（第5刷、屋久島環境文化財団、2010年）



表1：「授業スケジュール」

| | | |
|---|------|------------------------------------|
| ① | 4/11 | 講義1「持続可能な開発とESD」（阿部） |
| ② | 4/18 | WS1「地球社会の現状と課題1」（湯本(浩)） |
| ③ | 4/25 | 講義2「地球社会の現状と課題2」（ク） |
| ④ | 5/9 | WS2「参加型学習とワークショップ1」（ク） |
| ⑤ | 5/16 | 講義3「参加型学習とワークショップ2」（ク） |
| ⑥ | 5/23 | 事例1「学校でのESDのとりくみ」（小玉） |
| ⑦ | 5/30 | 事例2「NPOによるESDの取り組み」（飯島） |
| ⑧ | 6/6 | 事例3「企業によるESDの取り組み」（長沢） |
| ⑨ | 6/13 | 講義4「屋久島概論：世界自然遺産とは」（市川） |
| ⑩ | 6/20 | 講義5「屋久島の自然保護とその活用」（湯本(貴)） |
| ⑪ | 6/27 | WS3「屋久島教室1」（市川） |
| ⑫ | 7/4 | インターネット授業「屋久島教室2」（湯本(貴)・市川・屋久島関係者） |
| ⑬ | 7/11 | 講義6「ESDの今後に向けて」（阿部） |
| ⑭ | 7/18 | 「授業内試験」 |

2. 授業の「ねらい」と構成

本授業では、生態的に持続可能で社会的に公正な地球社会の実現というESDが持つ教育理念をはじめ、その教育内容や教育方法、国内外における実践の状況や課題などを理解するとともに、履修者自身が学内外で実際に行動していくためのグループワークやファシリテーションなどの基本的技能や、参加・対話・協働などによって主体的かつ自発的に問題を解決していく態度の習得を「ねらい」とした。

また、具体的な授業計画に当たっては、「講義」「事例紹介」「ワークショップ/グループワーク」「インターネット授業」の4つの授業形態で構成することとした（「表1」参照）。

① 講義：

ESDの重要な教育課題である「持続可能な開発」という概念やこれが成立してきた歴史的経緯をはじめ、ESDが掲げる理念の実現に向けて、早急な解決が待たれる環境・開発・人権・平和といった地球的課題（global issues）の諸概念やその様相などについて解説した。

② 事例紹介：

ESDが取り組まれている学校教育、NPO活動そして

企業活動の現場に関わる関係者をゲスト講師として招聘したほか、屋久島で「持続可能な開発」に取り組む関係者との対話から、ESD 実践の現場の「声」を紹介し、その現状や課題を検討した。

③ ワークショップ／グループワーク：

将来、履修者自身が社会や組織の中でESDを実践していけるよう、ワークショップを実施して、グループワークやファシリテーションなどの参加型学習の考え方や方法論を体験的に学習するとともに、「屋久島教室2」に向けたグループワークを実施した。

④ インターネット授業：

屋久島環境文化財団が運営する屋久島環境文化村センターとインターネット回線で結んで、屋久島で「持続可能な開発」やESDに長年取り組んでこられた関係者との対話授業を実施した。

なお、この授業のための回線や機材等の設営に際しては、本学のメディアセンターから多大な理解と協力を得ることができたことに感謝の意を表したい。

さらに、地球的課題を理解し、それを解決していくための知識や技能を習得することは、学生が今後どのような進路を選ぼうと、地球社会を生きるひとりの市民として、また、本学が掲げる「専門性に立つ教養人」や「世界に通用する自立した人材」として不可欠な素養であると考えられる。この点から本科目を、履修者が持続可能で公正な社会をつくる一員として成長していくことを願うキャリア教育ならびにコオプ教育（社会連携教育）の一環としても位置づけ、授業の企画運営を行うこととした。

3. おわりに：「授業アンケート」から見てくること

7月11日の第13回授業時に「授業アンケート」を実施し、履修登録者50名のうち42名から回答を得ることができた。なお、この科目は本学が各期末に実施している「学生による授業評価アンケート」の対象とはならなかったが、アンケートの内容や書式は、それと同様なものとした。



インターネット授業「屋久島教室2」

アンケート結果の詳細は省略するが、「設問4」に対する回答から判断すれば、履修者から高い評価や満足度を得ることができた。また、本科目が独自に設定した「設問5」の回答をみると、ESD等に関する科目の開講をはじめ、ワークショップ等の参加型の正課授業、スタディツアー等の実施を強く要望する学生の割合が非常に高いことを伺い知ることができた（「表2」参照）。

本学でもFD (Faculty Development) 活動やグローバル人材育成の取り組みが見られるが、そうした活動の今後の展開にとって、本科目の経験がひとつの参考になることを願いたい。

表2：「授業アンケート」の主な結果

| |
|---|
| <p>設問4：総合的に見て、この授業は以下の項目にどの程度当てはまりますか？</p> <p>① わかりやすい授業だった (4.45/3.94)</p> <p>② 授業全体の目標が明確だった (4.57/3.93)</p> <p>③ 学問的興味をかきたてられた (4.50/3.78)</p> <p>④ この授業を受けて満足した (4.57/3.85)</p> <p>設問5：</p> <p>② ESDや地球的課題をテーマとした教育活動に関する科目の開講をこれからも希望しますか？ (4.55)</p> <p>③ この授業ではワークショップやグループワークを採用しましたが、正課の授業でこうした学習手法を採用することに意義があると思いますか？ (4.79)</p> <p>④ 屋久島へのスタディツアーやフィールドトリップを企画した場合、参加してみたいですか？ (4.29)</p> <p>※なお、括弧内の左側の数字は、「5：とてもそう思う」から「1：そう思わない」の5段階評価の平均値。「設問4」の右側は2011年度「全学共通カリキュラム」の平均値である。</p> |
|---|

阿部治 (p.7 参照)

湯本浩之 (ゆもと・ひろゆき) 1960年生まれ。宇都宮大学留学生・国際交流センター准教授。国際関係論、教育学。在中央アフリカ共和国日本大使館在外公館派遣員、NGO活動推進センター（現（特活）国際協力NGOセンター）事務局長。特活）開発教育協会事務局長、立教大学異文化コミュニケーション研究科非常勤講師などを経て、2008年4月より立教大学文学部特任准教授（～2013年3月）。立教大学ESD研究所員（2012年度）。

市川照仔 (いちかわ・てるよ) 立教大学文学部フランス文学科卒業。金沢市文化財団金沢21世紀美術館、金沢大学広報戦略室室長などを経て、立教大学キャリア教育オフィス コオプ・コーディネーター（2008年4月～2013年3月）。